



「L-Share 災害医療支援セット」が独立行政法人国際協力機構の 国際緊急援助隊医療チームの携行資機材として採用

株式会社アイ・エス・ビー（本社：東京都品川区、代表取締役社長：若尾一史、以下 アイ・エス・ビー）は、医用画像ソリューション「L-Share シリーズ」の災害医療支援向けに特化した「L-Share 災害医療支援セット」が、独立行政法人国際協力機構（以下 JICA）国際緊急援助隊医療チームの X 線画像閲覧システムとして携行資機材に採用されました。

●「L-Share 災害医療支援セット」の採用について

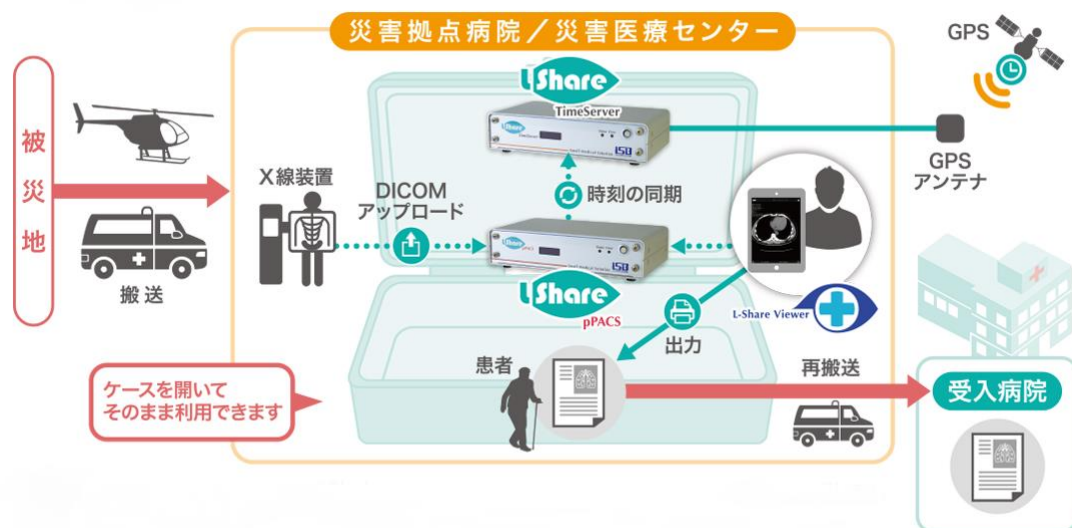
今回採用された「L-Share 災害医療支援セット」のコンセプトは、トランク 1 つだけで災害現場でのトリアージが可能な医療支援パッケージとして、電源が確保できないような過酷な環境でも搭載されたバッテリーのみで使用することができます。プリンターも装備しているので、撮影した画像を基に的確なトリアージが可能となります。

本製品は、既に兵庫県災害医療センターの「広域医療搬送拠点用 X 線撮影装置」としても稼働していますが、画像ビューイングや画像ストレージ等をタブレット端末や組込み機器で実現しているため、これらを組み合わせることによりコンパクトで可搬性・機動性に優れた X 線画像閲覧システムを実現しています。

【搭載機器】

- ① L-Share gPACS（ポータブル PACS サーバー、GPS タイムサーバー機能内蔵）
- ② L-Share Viewer Portable（iPad ×10）
- ③ モバイルフォトプリンター
- ④ DVD ドライブ（USB 接続）
- ⑤ 無線 LAN AP
- ⑥ モバイルバッテリー
- ⑦ アタッシュケース

JICA では、これにより既存の医療機器等と連携して、画像を DICOM 形式で L-Share gPACS へ保存、またはストレージし、そのストレージされた画像を国際緊急援助隊医療チームが L-Share Viewer Portable（iPad）で参照、モバイルフォトプリンターで画像出力を行い、画像情報とともに病院への搬送指示等の流れになります。



L-Share 災害医療支援セット機能利用シーン（想定事例）

●今後の展開

アイ・エス・ビーは、グループ企業理念体系のミッション「卓越した技術と魅力ある製品・サービスで心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献する」のもと、「L-Share 災害医療支援セット」を積極的に各地の災害医療病院や、在宅向け、その他ポータブル医療機器の利用シーンでの提案を行い社会貢献に努めるとともに L-Share シリーズの機能を拡充し、本製品の利用範囲を拡大してまいります。

●展示会への出展情報

「L-Share 災害医療支援セット」を構成する L-Share 製品をパシフィコ横浜で開催される下記展示会等へ出展いたします。

- 2021年7月28日（水）～7月29日（木）『国際モダンホスピタルショー 2021』
- 2021年6月21日（月）～8月31日（火）『ホスピタルショー オンライン』

* DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) : 医療用デジタル画像と通信に関する標準規格

* L-Share はアイ・エス・ビーの登録商標です。

アイ・エス・ビーが展開します L-Share 製品の詳細については以下の HP をご覧ください。

<https://lshare.isb.co.jp/>

お問い合わせ先

株式会社アイ・エス・ビー

東京都品川区大崎 5-1-11 住友生命五反田ビル

TEL 03-3490-1761（代表）

FAX 03-3490-7718

<https://lshare.isb.co.jp/contact.html>

※記載された内容は 2021 年 5 月現在のものです。